

近畿の大規模崩壊地で取り組む砂防

～川原樋川（赤谷地区）における深層崩壊対策～

- 川原樋川では発災当時、幅460m、高さ600m、長さ850mの崩壊が発生し約1,100万m³にのぼる崩壊土砂が河道を閉塞し、現在も湛水池を形成しています。大雨が降ると湛水池からの越流により、河道閉塞土砂の急激な侵食をともない土石流が発生し、下流の清水、長殿、宇宮原、上野地地区で甚大な被害が生じる恐れがあります。
- このため、河道閉塞土砂の急激な侵食を防止し、また河道閉塞箇所の下流に堆積した土砂の流出を防止するための工事を実施しています。

(補足事項)

見学可能期限：通年

(天候や工事状況によっては見学できない場合があります。)

見学対象：団体(10名～50名程度)

位置図



被災直後の状況



見学現場状況



見学現場状況

